

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------|-----|-----------------|
| ○事業所名 | こどもの家ひだまり いるま | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年1月6日 | | ～ 2025年1月31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 20名 | (回答者数) 16名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年1月6日 | | ～ 2025年1月31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8名 | (回答者数) 1名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年3月1日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 施設が広く、ゆったりと過ごせること。 | 室内を自由に動ける時間を設け、発散することができる工夫をしている。危険の認識が薄い児童に注意しながら、より多くの児童が遊びに参加できるように大人が仲介している。 | 粗大運動を好む児童の気持ちを満たしつつ、危険がないようにすること、マナー面の学習へつながるように、職員の対応や声掛けを統一していく。 |
| 2 | 1日を通した保育型の療育のため、様々な生活動作の習得が目指せる。 | 身辺自立を中心に生活に必要な力の習得ができるようにするため、児童が自分のことは自分で取り組む場面を設けている。 | 各児童の発揮できる力や場面、環境が異なるため、個々に合わせた支援を統一して行えるように職員間のコミュニケーションをより密に行い、職員間の連携を図りながら支援していく。 |
| 3 | 活動を通して様々なことを経験できる。 | 室内活動、室外活動どちらにおいても、自宅では難しい遊びを経験できるようにしている。 | 児童の好奇心を受け止め、可能な限り見る、触る、聞く等の経験できる機会を作り、個々の将来の余暇や就労などへつなげる土台を築いていく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 定型児との関わりが少ない。 | 保育園や幼稚園との関わりを増やすこと。 | 連携可能な保育園や幼稚園との交流を積極的に提案し、お互いに行き来ができる関係づくりを行う。 |
| 2 | 保護者が支援の様子を見る機会が少ないため、児童がどのように過ごしているのか、楽しく過ごしているのか、どのような支援を受けているのかが不透明なこと。また、保護者同士の関わりや兄弟児へのフォローなどが少ない。 | 完全母子分離のため、児童への視覚支援の方法や声掛けや促し方などが保護者に伝わりづらいことがある。連絡帳や面談、ブログを通して児童の様子を伝えているが、自宅で同じ支援を行ってもうまくいかず、保護者の成功体験を積めないことがある。 | 参観や行事の時にフォローが必要なご家庭には職員が丁寧に関わるようにする。 月に1回でもいいので母子通園の日を作る等、児童への支援を保護者に見てもらいながらアドバイスできる機会を設ける。 |
| 3 | 災害時の対応が保護者へ伝わりづらい。 | 安全計画を元に研修や訓練を行っているが、その内容が保護者へ伝わりづらい。 | 研修や訓練時には写真の撮影を行い、ブログで積極的に公表することで取組への認知を高める。 |